

パソコンのレンタル代を支払った場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん： 今度のセミナーで講師用のパソコンが必要なのですが、使えそうなパソコンはないでしょうか？

先輩： あるにはあるが、会社のパソコンには外部のUSBメモリを接続することはできないよ。

新人さん： そうなんですかあ。

先輩： うん、情報セキュリティ対策の一環として登録されたUSBメモリしか使えないんだ。

新人さん： 講師からの指示を受けて、パソコンを用意しておきますと応えてあるのですが……。

先輩： セミナー用に1台レンタルしたらいいんじゃないかな？

●解説

「賃借料」とは、OA機器、工作機械、コンピュータなどの動産を賃借する場合に、その動産の所有者に対して支払う賃料を処理する勘定科目です。なお、建物や土地などの不動産を賃借する場合の賃料は「地代家賃」の

勘定科目を使うことが多いです。

また、リース契約に基づき、OA機器などをリースした場合は「リース取引に関する会計基準」に従って処理をします。

「リース取引」とは、物件の貸し手（レッサー）が借り手（レシー）に対して、リース期間にわたり物件を使用収益する権利を与え、借り手はその期間に貸し手にリース料を支払う取引をいいます。

リース取引は、リース期間の途中で契約が解除されないファイナンス・リース取引と、ファイナンス・リース以外のリース取引であるオペレーティング・リース取引に大別されます。ファイナンス・リース取引は一般的に、通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行ないます。一方、オペレーティング・リース取引は、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行ないます。

ただし、中小企業の場合、どちらのリース取引も賃貸借取引に係る方法に準じて、「支払リース料」として費用処理をすることも認められています。

ケース1

パソコンをレンタルした場合

セミナー用のパソコンを1台レンタルして、業者にレンタル料11,000円（税込）を普通預金口座から振り込んだ。振込手数料は220円（税込）であった。

【借方】	賃借料	10,000	【貸方】	普通預金	11,220
	支払手数料	200			
	仮払消費税等	1,020			

ケース2

複合機をリースした場合

オペレーティング・リース契約を結んでいる複合機の月額リース料22,000円（税込）を普通預金口座から振り込んだ。振込手数料は220円（税込）であった。

【借方】	支払リース料	20,000	【貸方】	普通預金	22,220
	支払手数料	200			
	仮払消費税等	2,020			